

## 頭痛の鍼灸医学的考察

頭痛は本稿の「はじめに」で示した如く、正に国民病といえる。鍼灸医学ではこの頭痛を陰陽の気の失調や気の逆上、気の偏行等のいわゆる厥氣逆上によって発症する厥病と捉えている。

靈樞の厥病篇には九種類の頭痛について述べている。その中で偏頭痛について次の様な記載がある。

頭半寒痛、先取手少陽陽明、後取足少陽陽明。

頭のなかば寒痛するは、先に手の少陽陽明を取り、後に足の少陽と陽明に取る。  
とある。

要するに頭部の片側の痛みに加えて寒冷の病症がある場合は、手足の少陽経、陽明経を治療すると良いとしている。偏頭痛は発痛部位によって病理に違いがある。右偏頭痛は、気虚で痰、気うつで肺虚となる。左偏頭痛は、血虚で風邪、熱、瘀血によるもので、肝虚となり、胆に熱がこもり発症する。

頭痛は痛む部位によって変動経絡を確認ができるかおおよそ次の様に分類できる。

- 一、後頭部から項背にかけて痛む（頭項強痛）  
……太陽経頭痛（膀胱、小腸経）
- 二、前額部あるいは眉間にかけて痛む（前額痛）  
……陽明経頭痛（胃、大腸経）
- 三、両側あるいは一側の側頭部が痛む（側頭痛）  
……少陽経頭痛（胆、三焦経）
- 四、頭頂部の痛み  
……厥陰経頭痛（肝、督脈）

### ◆症状と取穴

#### ▼靈樞 厥病第二十四

厥頭痛。頭脈痛心悲善泣、視頭動脈反盛者、刺盡去血。  
後調足厥陰。

▽意積

気厥により陰陽の失調を来たし、それが原因となって起こる頭痛で、もし頭部の脈がズキンズキンと痛み心落ちつかず、よく泣がでるような症状のものに対して頭部動脈の状態をよく切診し、もし盛満な個所があればその所を刺して尽く其の血をとり、その後足に足の厥陰肝経の穴を取って之を調えるのである。

◆施療について

- 一、本治法を行う
- 二、痛みのある経絡本経の誘導的刺法を行う
- 三、痛みのある局所に刺鍼を行う

◆取穴例

- 一、胆経……………脳空、頭竅陰、目窓、天衝、風池、率谷  
肩井、丘墟
- 二、膀胱経……………玉枕、攢竹、天柱、申脈、京骨
- 三、肺経……………孔最
- 四、脾経……………商丘
- 五、大腸経……………合谷
- 六、胃経……………頭維
- 七、三焦経……………外関、和髎
- 八、督脈……………百会、腦戸、後頂、顛会